

警察がカトリック教会を急襲、ペド集団の捜索でバチカンのノート PC を押収

官憲がパソコン、記録文書、ファイル、コンピューターなどを押収

【訳者注】これは南米チリの話だが、これを読むと、ローマカトリック僧の間では、ペドフィリアが慣行化、つまり「ノーマライズ」されていて、犯罪の意識はほとんどないかのように見える。これは、バチカン宮殿そのものが、ルシファーに乗っ取られている証拠であろう。今回のチリの大規模手入りは、犯罪僧と一般人の目を覚まさせるのに役立ったのではないだろうか？ この犯罪が慣行化しているだけでなく、これを教会全体が協力して隠ぺいし、それが不可能になると、「教会法」などを持ち出してこれを正当化し、やめようともしないところに、腐敗の根深さと、サタン勢力の根強さを感じ取れる。

Daniel Newton, www.neonnettle.com

August 1, 2018



南米チリで、官憲がペドファイル僧に対する態度を硬化させるとともに、検察官と警官が、カトリック教会の事務所を急襲し始めている。

6 月半ば以来、6 回の手入れが、カトリック教会に属する事務所に対して行われた。

官憲は、ノートパソコン、記録文書、ファイル、それにコンピューターといった、すべてバチカンに属するものを、巨大なペドファイル集団手入れの一部として、押収した。

<http://www.neonnettle.com/tags/pedophile>

この襲撃は、この国のカトリック僧の犯した子どもへの性暴行の、現行の調査の一部として、今も継続中である。

チリの検察官 Emiliano Arias は、公式の教会所在地への急襲を命令したが、これは現在、法の權威によって行われた、これまでの最も攻撃的な捜索と考えられている。



Opindia によれば、現在、調査されている子供への性暴行の申し立ては、2007 年という過去にまで遡る。

<http://www.opindia.com/2018/08/pope-francis-and-catholic-church-shamed-after-chile-gets-tough-against-child-sexual-abuse-scandal/>

ご意見はここへどうぞ：<http://www.neonnettle.com/news/4676-police-raid-catholic-church-seize-vatican-laptops-in-pedophile-ring-bust#>

チリ官憲は、この犯罪の犯行者である聖職者を逮捕し、起訴しようとしているだけでなく、教会がその犯罪を隠ぺいし、続けさせようとしていることことに、目を光らせている。

ロイター通信へのインタビューにおいて、アリアス検察官は、押収された記録文書には、教会には報告されたが、教会はそれを官憲に報告せず、その苦情申し立てを隠した、子供への性暴力の詳細が、30 件も含まれていると言っている。

アリアスはまた、教会はその記録文書を隠滅しようとさえしたが、踏み込んだ警察がそれを危うく食い止めたこともあると述べた。

チリの大司教で枢機卿 Ricardo Ezzati のトップ補佐官である Oscar Munoz は、何度かの子供に対する性犯罪で、逮捕されている。

検察官たちは、エツァティ枢機卿は、彼の補佐官の犯罪を知りながら、報告しなかったものと考えているようである。

驚くべき暴露によって、検察官たちは、極端な襲撃の手段を取らざるを得なかったが、それは、カトリック教会の上層部が、犯罪聖職者たちの情報を明かすことを拒否し、その性犯罪と、そこに関わった犯罪僧たちについての詳細は、バチカン法のもとで、“法王権秘密”として保護されていると主張したからだ、と述べている。

世界中の調査官は、法王権秘密の「教会法」 Canon Law が、ローマカトリック教会によって、重罪に問われた僧侶たちを庇うために、しばしば使われると主張している。

それだけではない。サンチアゴの、この大司教の事務所は、自分たちはバチカンそのものによって、この法王権秘密を官憲に対して、言い訳として持ち出すように、求められているのだと認めさえしている。

チリでは、カトリック僧による子供性虐待の申し立てがあることは、かなり昔から報告されている。

事態は、2015年、法王フランシスが、Juan Barros 司教をオソルノの司教に任命したときに、重大な転換期を迎えた。



バロスは、チリで最も悪名高いペド僧侶である Fernando Karadima 師を庇い、保護したとして告訴された。

不幸なことに、カラディマは、権力を持ち、政界につながりがあるだけでなかった。彼は、出訴制限の成文法の下にある法律によって、そのような起訴も処罰も免れることになっていた。

バチカンには、カラディマの犯罪の犠牲者たちが、ついに一般に知られるようになった後、カラディマを公的な地位から退かせる、形だけの処分を行い、彼を“悔悛と祈りの生涯”という制裁に処することにした。

法王フランシスが、2018年1月にチリを訪問したとき、抗議が広範囲に起こり、怒った大衆による教会の焼き討ち事件が、いくつも起こった。

報道によると、9つの教会が、怒った暴徒によって火炎爆弾を投げつけられ、カトリック教会の、暴行僧侶を庇う姿勢に抗議がぶつけられた。

広範囲なしっぺ返しと批判を受けて、法王フランシスは、ある意味で強制されて、子供への性暴行事件への謝罪を表明した。

彼は最初、ホアン・バロスを弁護し、彼への非難を「中傷」slander だと言ったが、後には謝罪を表明し、2人のバチカン使節を送って、犠牲者たちと会見させ、彼らの言い分を聞かせた。

その使節、大司教 Charles Scicluna と Msgr Jordi Bertomeu は、そのとき、2,300 頁の報告書を用意しており、それは、子供たちに対する僧侶の犯罪が報告されるたびに、教会上層部による隠ぺいがあったことを、確認するものだと言われる。

法王フランシスは、この報告に準じて行動し、チリの 34 名すべての司教を、今年 4 月に、ローマに召喚したと言われる。彼らのすべてが、自分の役職から降りると申し出たと言われているにもかかわらず、法王はこれまで、5 件の辞任しか認めていない。

報道によると、チリだけでも、約 80 人のローマカトリック僧が、過去 18 年の間に、性的暴行で起訴されている。

最近の報告では、これまでに官憲の取り調べた性的暴行の申し出の数は、158 件で、カトリック僧、役員、用務員によるものだったという。

犠牲者の数は、数百にのぼると言われている。

カトリック僧による子供への性的暴行と、その犯罪を隠ぺいするだけでなく、犯罪僧を助け、保護し、弁護しようとする、教会の露骨な試みは、ローマカトリック教会の恥を何倍にも上塗りしてきたものである。

世界全体で、教会がその犯罪僧を保護している現場を捉えられた事件が、数多く起こっている。

最近では、マサチューセッツ州で、70 年代と 80 年代に、教会が、性暴行の犠牲者に 1 千万米ドルを支払うように命令された。

この事件の詳細は、オスカー賞を受賞した映画『スポットライト』に取り込まれているが、それは、これら犯罪僧たちが彼らの犯行を続けることを許されただけでなく、権力をもつ合法の公的なロビーが、犠牲者たちを騙し、ごまかすことによって、うまく彼らを保護してやる内容になっている。

インドでもまた、教会僧侶による性的暴行の多くのケースが、明るみに出されている。

最近ジャカルタで、慈善団体のミッション・スクールの尼僧たちが、子ども取引と幼児売却の嫌疑で逮捕された。

このような虐待や犯罪の露骨な文化が、教会で盛んに行われているにも関わらず、教会がしばしば、自分自身の政治的計画のために、犯罪にならないように、インド人まで利用しているとは、実に不幸なことである。

子供に対する性犯罪は、人類の汚点である。

教会が世界に向って、どの政治家を選ぶべきか、どの医療選択をすべきかを説教する前に、カトリック教会が、自分自身の罪をすすぎ落すことを考えるべき、時がきている。